

## 小金井市立保育園の今後の運営に関する説明会

日時：令和7年10月25日 午後1時30分～3時56分

会場：くりのみ保育園

対象：くりのみ保育園保護者

参加者：15人

### 【質疑応答】

○参加者 本日はお時間いただきありがとうございます。

今、中島課長からお話があった利用調整指数について、きょうだい児の受け入れについて今、上の子がくりのみに通っていて、下の子が通えていないご家庭は不安が残っているのではないかと思っていて、以前、2回開催いただいた懇談会でもその話はあったと思うのですが、実際あのときに、募集が2人ぐらいしか増えていなくて不安ですという話が出ていたと思うのですが、うまく説明ができないんですが、実際どうでしたかというのを聞きたくて、1歳児クラスで入園させたいと思ったときに、東町エリアで通わせたいと思える保育園が多くないというところで安心して通わせられる保育園の担保っていうのは、在り方検討委員会でも話がありましたけど、その部分も含めて、どう整理されていて、市として大丈夫だということで廃園が決まったと思うのですが、これで入れなかったということが起こってしまうと話が違うと思うのですが、市としてどういう話があったのかというところをお伺いしたいと思います。

○中島保育施策調整担当課長 三者懇談会で2歳児クラスの募集数のお話がでて、その場でうまく伝えきれなかった部分もあるかと思うので改めてご説明させていただきます。

小金井市の入所申請で一番多いのは0歳1歳です。懇談会で2歳児クラスのお話がありましたが、この間の小金井市の申し込みを見ると、0歳と1歳が多いという状況です。

上の子が在園した状況で、下の子の育休を取っている場合、1歳を迎えた4月末までに復帰をする必要があるという小金井市の入所の仕組みの影響もあり、きょうだいの下のお子さんの入園は、主に1歳クラスが多くなっています。

三者懇談会で2歳の募集が少ないというお話が出たのはそのとおりですが、ニーズの多い1歳の募集を多く出すとそのお子さんたちが2歳クラスに進級しますので、2歳クラスの新規の募集数は少なくなります。こ

れは市全体での傾向です。

3、4、5歳になると保育士さん1人で見られる人数が多くなる配置基準の関係で募集数が増えるので、一番募集が少ないのが2歳クラスとなっています。

また、エリアについても三者懇談会でご意見をいただいております。小金井市は決して大きな自治体ではないので、市内の保育園の需給バランスを考えたときに1つのエリアで需給バランスを考える計画になっているというご説明をしましたが、1つのエリアで考えるのは良くないのではというご意見もいただいているところです。

現状としては、一圏域で需給バランスを考えていく中で、のびゆく子どもプランという市の計画がありますが待機児の状況や児童数の推移も踏まえ、定員設定をさせていただいているとお答えしたところです。

#### ○参加者

ありがとうございます。今のお話を聞いていて、二つ気になったのですが、きょうだい児について、例えば上の子がくりのみに通っていて、下の子をどこに入れるかとなった時に、現実的に、くりのみに送り届けた後に、西側の園に送り届けて仕事に行く。帰ってきて、武蔵小金井でお迎えに行ってくりのみにくるというのは現実的な日々の暮らしではないと思っています。

というのは、この前の懇談会で、小金井市はエリアが小さいというお話がありましたが、私たちがしているのは目の前の生活の話、暮らしの話で、現実的かどうかという話になったときに、やっぱりそれってすごく冷たいというか、リアルではない。数字上の話でしかないというところが気になってしまったり、そこを、在り方検討委員会でどういう保育をしていくべきかということを考えてもらえんと思っていましたので、その回答はすごく残念です。せっかく在り方検討委員会を1年時間とお金をかけてやった結果がそれなのかと、市政に本当に反映されてるのというのは疑問が残ってしまいます。

廃園していく園ということはあると思いますが、実際にきょうだいがいる人たちが仕事をしていて、通わせる先として、リアルですかというところは考えるべきだし、実際のニーズなりを見て欲しいと思います。検討の余地があるのであれば。ここはどうかしていただいたほうがいいんじゃないかと思うのですが、余地はないですか。

○中島保育施策調整担当課長　今私が申し上げた圏域については大きい話になるので、保育課だけでこう変えましょうという話をするのは難しいです。

保護者の方にはおしかりを受けるかもしれませんが、待機児が多い中で、保育園の新規開設をこの10年間してきましたが、保育園をどこに建てるかというときに、例えばここに市の土地があるのでここでやってくださいというような、能動的な誘致は出来ていませんでした。市として用地がある訳ではないので、民間の事業者の方で土地見つけてという提案型でやってきました。

その関係で、議員時代の市長からおしかりを受けていましたが、地域を考えての開設になってないということについて、厳しいご意見をいただいたかと思っています。

そういった中で、今おっしゃっていただいたようなリアルな送り迎えのところについてどう見ていくかというところは、アンバランスなところがあることは事実です。

圏域の話とは別に、今申し上げた1歳児クラスの募集数を増やすという取組について、民間保育園も含めてお話をさせていただいております。今申し上げたようなニーズのところで、今後、0、1歳のニーズがスライドして、2歳児で入園したいという方が増えるのであれば、逆に、1歳の募集数を変えていかないと2歳の新規の入園の募集数というのは増えないということになります。ただ、ニーズが毎年同じであればわかりやすいのですが、私が保育課に関わって約10年ですが、年度によってがらっとニーズが変わります。子どもの数は増えていないのに、この年にこの学年の申請だけが増えるということが起こったり、募集の申請の内容を見ると、保育の認定要件が就労ではない申請の方が増えたりということもあります。非常に傾向として読みにくい状況がありますが、私たちが大事に考えてきたのは待機をされる方を減らすということです。そこを一番に考えて、供給量について考えてきましたが、今は翻って保育の質の話をいただくことになり、今後、指導検査も含めてですが、そういった対応もしていきたいと思っています。

○堤子ども家庭部長 資料4でご説明させていただいている優先項目2ですが、きょうだいがくりのみ保育園またはさくら保育園に在籍している場合、同点であれば勝てるというものを追加で作りました。例えばある園を希望したとき、そこにもともときょうだいがいる子とのバランスは考えたのですが、少なくとも同点であればくりのみ保育園、さくら保育園の在園児のきょうだいを優先するということで、対応を取っています。

もう1つは定員の話ですが、東西のバランスを取るというところは難しい問題です。担当課長が申し上げた中にもありますが、利用定員の調整

といいまして、民間園も含めて保育定員の調整を行っています。その中には、特に1歳児は増やして、3から5歳児は空きが多いことから減らすという対応を取って、市全体で必要な数が確保できるようにという対応は行っているところです。

○参加者      ありがとうございます。優先があるというのは理解しております。また募集人数も増やしてくださっているものだったので、そこはありがとうございます。

実際、今年の応募状況、倍率はもう出てるのですか。

○中島保育施策調整担当課長    今ちょうど受け付け期間中で、応募を締め切っていません。締め切り直前にお申込みいただく方も多くいらっしゃるので、傾向がわかるのは締め切り後になります。現段階では、今年の傾向というところもお答えが難しい状況です。

○参加者      募集状況は今どうなんだろうというところがわからなかったの、お聞きしました。それでいくと、きょうだい児に優遇があるのはありがたいのですが、このあたり、東町エリアは駅前に新築ができたりで、お子さんが増えるか増えないかわかりませんが、その子たちが通える場所がなくて、例えば待機児童が増えてしまうということにならないようにしていただきたいと思います。せっかく待機児が減ったのに、質を上げたから待機児が増えたとなったら嫌じゃないですか。

あと、くりのみの子ども、きょうだいを優遇をしていただくのはありがたいのですが、一方で、一人目のお子さんは全員このあたりで入りたいところに入れられないということになるのはちょっと違うと思うので、これは蓋を開けてみないとわからないと思いますが、そこは心配だと思っています。

○堤子ども家庭部長    今のご指摘について、のびゆく子どもプランを作るにあたって、児童数の推移をみています。今回の方針を作るにあたってそこを踏まえたものとしていますが、それでも心配があるという指摘だと思います。

今年の4月は1歳児に待機児が出ていますし、そこについては引き続き注意してみていきたいと思っています。

○参加者      本日はお時間ありがとうございます。利用調整基準のところ、在園児ケアについてですが、同じような質問になって大変恐縮なんです、まず

きょうだいがいない子どもの場合、もし転園希望を出した場合、マイナス 10 点が適用除外になり、特例申請の 5 が追加され、先ほどご説明があった同じ点のときの優先項目っていうのはないという考え方でまずあっていきますか。

○中島保育施策調整担当課長 下のお子さんがない場合、特例申請のプラスが付くのと、市立保育園に在籍するお子さんの転園であればマイナス 10 も付きませんが、一方で優先項目はきょうだいがいる前提のものなので、付かないです。これは、民間で一人っ子の場合でも優先項目は付きませんので、点数にして 15 点差が付きます。

そもそも優先項目は点数で並んだときのためのもので、その優先項目よりも調整指数の部分で加点をしている時点で、民間の家庭、一人っ子の場合とくらべた場合、よほどのことが無い限り点数で公立保育園のお子さんが上回ることになります。ただ、お仕事の時間が短い等で基本指数が低い場合には、差があったとしても確実には入れるというわけではないということはありません。

○参加者 質問したのは、厚生文教委員会でも、この前の三者懇談会でもお伝えをさせていただきましたが、すごく今不安を感じているのが、数字上はクラス 24 人になっていても、実際はそこが満たされていなくて、きょうだいが生まれたり、それ以外の事情で転園されていって、同級生がいなくなってしまうのではないかという不安があるということを私は訴え続けています。できれば、このままくりのみ保育園で卒園をしたいけれども、あまりにも同級生がいなくなってしまうと最後の一人二人になるのは避けたいという話をお伝えしてきたつもりです。

その中で、どのタイミングで転園させるのか、毎日不安なんですけど、利用調整の資料を見ると転園希望についても、くりのみとさくらだけではなく、市立保育園からの転園の場合に除外となっていて、基本指数の話も理解はしているんですけども、同点になった時にくりのみ、さくらに残されている園児が優先的に通える現実的なところに転園できるのか、あまりケアされていないのではないかと感じています。

私が個人的に感じている不安要素とか、心配に感じているところっていうのは、プラス 15 点はありますよと言ってくれてますけども、4 歳、5 歳だと募集枠が無かったり、入れていても非公開になっていたり、それがどれぐらい有益なものなのか。さくら、くりのみに最後に残されて友達も少なく転園したいといった場合の対応措置がこの資料だと見当たらない

と思っているのですが、いかがでしょうか。

○中島保育施策調整担当課長　まず転園希望のマイナス 10 の適用除外を、もともとさくら保育園、くりのみ保育園のみの適用だったのを市立保育園全体に拡大したのは、残る 3 園についても保育定員自体を縮小していくという方針としたことについて、それは希望していることと違うので転園したいという方もいらっしゃることを考え、対象を市立保育園全体に広げていきます。

今、市立保育園 5 園は、利用いただいている保護者の方に高く評価をいただいていると思っています。懇談会でも、できるのであれば残りたいというお声もいただいているところですが、くりのみ保育園とさくら保育園については、下のお子さんの学年の募集が出ないという中で転園をというお話がある中で、それ以外の市立園からこのマイナス 10 の適用除外を使って転園をしたいという方は、私たちの今の考えではそれほどいないのではないかと考えています。

そもそも、この転園希望の規定は、きょうだいが別々の園に通うことになっている場合に、同じ園に移りやすくするために設けた規定ですので、市立保育園の在籍の方同士での競争が激化するというものではないのではないかと考えて、このような設定にしています。

ただ、先ほどのご質問にお答えしたように、今年の申し込み状況はまだはっきりしておりませんので、その部分はしっかり見ていきたいと思っています。

今おっしゃっていただいたような状況が実際に頻発してしまうような状況があれば、来年、再来年に向けて、指数や優先項目については見直しをしていくという考えは持っています。ただ、今回の令和 8 年 4 月の入所については、そういった考えのもと入所指数は作らせていただいているものになります。

お子さんが減っていくことに対するご心配ということもおっしゃっていただきましたが、何とか、最後の学年までしっかりと集団での保育を維持できるようにと考えております。

三者懇談会でもありましたが、小規模になるからこそできることをやって欲しいというご意見もいただいておりますが、そういった取り組みを積み上げていくことと合わせて、年度途中の入所のお問い合わせをいただく中でも、園で行う保育の取組についてお示しすることで、途中入園を希望される方に入所を促していきたいという考えです。

一方で、極端な話ですが、最後 1 人になったらどうするということ

は、それは可能性としてあり得るかと思っていますが、在籍のお子さんが少数になったときは、また違ったご相談を保護者の方たちにせざるを得ないと思っています。たとえば、きょうだいが他園にいらっしゃるということであれば、その該当園への転園を、通常の入所の利用調整とは別の形で行うということは、可能性としてはあると思っています。ただ、現時点で何か対応を確定しているわけではないので、明確なお答えは難しいのですが、そこはやはり子どもを第一に考えて、また、保護者の方のご意見を伺いながらご相談をしていく部分になると思っています。

#### ○参加者

今日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。

個人的なことになってしまうのですが、上の子がくりのみに在籍していて下の子の入園について準備をしているところなのですが、きょうだいそろってけやき保育園に転園をした方が良いのか、非常に迷って準備をしています。

資料のけやき保育園の募集数についてですが、資料では3、4、5歳の定員が合計75人となっていますが、先日けやき保育園に見学に行ったところ、8月時点の利用人数を聞いたら、合計67名ということでした。単純に見ると空いているのかなと思ったのですが、11月の募集では0になっていて、在園児数と定員を引き算したものが募集数だと思うのですが、ここがどういう考え方になるのか教えてください。

私たちにとっては、上の子がけやきに転園できるかは死活問題で、二人を違う園に送迎するのは非常にづらいので、在園児数もタイムリーに公開してもらえないでしょうかというお願いです。

○中島保育施策調整担当課長 在園児数の公開は今までやったことがないので、今即答ができませんが、けやき保育園に限らず、他の民間保育園もですが、年度途中で空きが出た部分について、年度内で募集を出すか次の4月に募集を回すかというのはその施設ごとの判断となっています。

公立保育園でいくと、3、4、5歳の年度内の空きは、よほどのことがない限り次年度の新規募集に回している状況があります。

ただその上で、方針の4ページを見ていただくと、3、4、5歳の定員も少しずつ減っていく計画になっていて、この減っていくことに合わせた形で、下の学年からの進級者との差が募集数になります。在籍児童数の公表というのは即答ができないのですが、募集数の出方については、おっしゃっていたとおりの考え方となります。

○参加者 来年の4月になったら、3、4、5歳の募集が出るということですか。

○中島保育施策調整担当課長 いえ、けやき保育園の場合、例えば4歳クラスで募集が出ていないのは、下の学年から24人の進級があるからで、今3歳クラスにいる24人が4歳に進級するので、募集が出ていないということになります。

ただ、これから3月に向けて転勤とか転出とかがあれば、その分、募集が出るということになります。

ですので、現時点で募集数が出ていないとか少ないという場合でも、今後募集数は動く可能性がありますので、希望園に含めて申請をしていただければと思います。個別の、細かい内容については、保育課にお電話でもいいのでご連絡いただければ詳しくご説明ができますのでお願いします。

あと、募集数について、市報に載せてお知らせしましたが、退園等で募集数が動いた場合には、随時ホームページを更新していますのでこちらもご覧いただければと思います。

○参加者 ありがとうございます。今の話でお開きしたいのが、けやきの見学に実際に何人来たかというのは保育課で把握していますか。

○中島保育施策調整担当課長 午前中、けやき保育園での説明会の際に聞いたのですが、120人ぐらいだったということです。

○参加者 それは例年と比べて多いのですか。

○中島保育施策調整担当課長 例年と同じくらいと思っていただければと思います。

毎年公立保育園の説明会を行っていますが、小金井保育園とけやき保育園は駅前という立地もあって非常に見学のお申し込みが多くなっています。特にけやき保育園は建替えをして、公立保育園の中でも新しいので、見学のお申し込みも非常に多く、説明を受けていただくのと園庭の見学とに班を分けて実施していたりしているというのは、毎年起きています。

○参加者 私も子どもを連れて公園などに遊びに行くのですが、東町周辺のお母さま方はみんな不安を抱えていて、どこに見学に行ったらいいとか、この園に申し込まないとというような話をよく聞きます。

東町周辺の保育園が少ないという状況だと、けやきで何とか受け止めないとその不安は解消されないのかなと思っています。そういう不安を抱え



ているので、どこかが受け止めなくてはいけないけど、けやきも小金井も定員は減っていくということで、不安ばかりが増えるような気がしていて、そういうアンケートも取られてないようにしか思えないので、出たところ勝負で決めるのではなくて、もうちょっと予測して、動いてけるようになっていただけるとこちらとしては安心できるかなと思って、ご検討いただけると助かります。

○中島保育施策調整担当課長   ありがとうございます。

アンケートをとということですが、先ほど言った計画の中で無作為抽出ですがやっています。ただ違った意味で、毎年申請の状況などを踏まえた分析については継続してやっていきたいと思ひますし、それに合わせた形で、今利用定員の調整を民間園とも毎年やっていますが、その分析を踏まえてお話ができればと思ひています。

○参加者           資料6についてお伺ひしたいのですが、来年度3歳児クラスがなくなった時に職員の方がどれくらい減るのかというところをイメージしておきたくて質問です。

令和8年度からの保育士さんの数は、通常保育というのは、くりのみ保育園で担任として従事して下さる方ということですか。

○中島保育施策調整担当課長   こちら、資料の説明のところでもう少し申し上げればよかったと反省しております。

こちらは担任をやる正規職員の数になります。朝夕の保育の補助は含まれていません。あくまで今回の方針で大きく動くのは正規職員の部分です。保育補助のところは、お預かりする児童の状況に合わせて必要な人員を継続して配置していきます。ただ朝夕も、一時期よりも対応いただける方が少なくなっていて、見つかりにくくなっています。そういった部分を担保するためにも、正規職員のこういう趣旨のところはしっかり残していきたいと思ひています。

単純な基準だけでいくと、くりのみ保育園は令和8年度、9年度と人数は減っていく形にはなりますがシフトを回すということを考えると、正規職員の部分をしっかり残していきたいと考えています。

○参加者           ありがとうございます。今、お話の中であった実際減っていくと思うというのは児童の数のことですか。

○中島保育施策調整担当課長 職員数の考え方のことです。配置基準に基づいた職員数だけを配置するのであれば、令和 8 年度と 9 年度はこの数よりも少ない職員配置で基準上は問題ないのですが、そこは職員数を減らさないということとして判断したということです。現場の保育がしっかり回せるように、基準以上に職員を残すという方針としています。

○参加者 ありがとうございます。例えば、児童数が定員の 24 人に満たなくても職員配置はこの数になるということですか。

○中島保育施策調整担当課長 そのとおりです。しっかり保育をやっていきたいという思いもありますので、お子さんの数にあわせて職員を減らすということとはしないということです。

○参加者 ちなみに、令和 7 年度はこの通常保育の職員の方は何人いるんですか。

○中島保育施策調整担当課長 お休みの方とかもいますが、今、実際に勤務しているのが 9 人です。

○参加者 役割対応というのは何ですか。

○中島保育施策調整担当課長 令和 8 年度から、くりのみ保育園、さくら保育園は空いたお部屋を活用して、こども誰でも通園制度を実施する考えです。

ただ、こども誰でも通園制度は、通常の保育と違って、朝 7 時から夜 7 時までという形ではないので、そういった職員も朝とか登板を回すような人数に組み込んで、日中は役割の業務をやるけど、朝夕のシフトの部分では、頭数に入れたいと思っています。

令和 8 年度を見ていただくと、通常の 7 人と役割対応 2 人なので、今 9 人いる保育士さんは来年も頭数としては変わらないということになります。懇談会で先生は変わって欲しくないというようなご意見をいただきましたが、そういった部分について私たちも今のくりのみ保育園の状況で、担任する保育士さんをはがらっと変える考えはありません。

ただ、人事異動で、働き方についてのご希望があってというような中で変動はあり得ますが、最小限の影響になるように人事は考えていきたいというのは、この前の懇談会の中でもお話をさせていただいたところです。

今申し上げたように、実勤務の人数は令和 8 年度は変わらない中で、私たちとしては、くりのみ保育園の保育を継続していきたいというのは、

今、考え方として持っています。

○参加者 役割対応の方も通常保育に入ることですか。

○中島保育施策調整担当課長 通常保育というよりは、朝とか夕の部分。あとは土曜の当番。認可保育園としては週 6 日開所しますが、行政機関の職員としては週 38.75 時間というのが基本の労働時間になるので、ローテーションでシフトをまわして、土曜保育の対応も当番で対応しています。

○参加者 ありがとうございます。もう一つだけ、園長先生も通常保育の人数にカウントはされているのですか。

○中島保育施策調整担当課長 資料上はカウントしてます。誤解がないようにお伝えすると、園長は運営を担当をしていて、担任をするということではないのですが、市全体の職員体制としては、この資料に園長は含んでいます。

○参加者 わかりました。ありがとうございます。  
2 つあって、一つ目は保育園の跡地の利用について検討しますということでしたがスケジュール感を教えてください。  
もう一つは懇談会でもありましたが、父母会で契約している写真の話で、世帯数によって同じ金額でも撮影回数が減ってしまうということがあって、廃園になることで世帯数が減っていて、撮影をしてもらえる回数が減っていて、それを維持するためには追加でお金を支払わないといけないという状況です。そこに対して、市の方で今と同じ写真の回数を保つような予算などを取ってもらえないかという質問です。

○堤子ども家庭部長 跡地についてです。

子どものために利用されてきたということを踏まえて検討、ということなので、これからということになりますが、保護者の皆様にとって、閉園した後どうなるのかを閉園する前に知っておきたい、子どもたちも言えるようにしておきたいということはもちろんあると受け取っています。この令和 8 年度、9 年度というところで継続的な検討をしていく必要があると考えており、その検討状況をまたお知らせしたいと思っています。

○白井市長 できるだけ早く決めたいと思います。  
ただ今の段階では、行政として決めているものはありませんか、条例を

可決して、公共施設マネジメントの担当部長と話をし、こども家庭部長とも話をし、子ども関係の施設として活用するということをベースに跡地活用について検討していこうということです。

今の段階で具体的に申し上げられることが無い点については、大変申し訳なく思っています。

○参加者      ありがとうございます。今スケジュールが決まっていないということですが、決まっていないなりに、例えば半年に一回とか進捗を報告いただけないかと思っていて、今までは検討しますと言って何も進んでいなかったというのが実態なので、しっかりこちらも見ていきたいと思っています。

四半期なり、半年なりで進捗の報告をしていただきたいのですがいかがですか。

○白井市長      わかりました。定期的に状況についてお知らせできるようにしたいと思います。

○黒澤保育課長      写真の話です。

懇談会でもお話しましたが、写真については何かしら対応をしたいと思っておりますが、父母会を出しているお金を市として補填するというのは難しいです。何か違う形でということを考えています。

確定ではないのですが、コドモンを活用して配信をするとか、デジカメで先生たちが撮った写真のデータを提供するであるとか何かしら対応をしたいと思っております。

今、来年度予算として、それらに係る予算要求を行っているところです。現段階でお伝えできるのはここまでで、予算要求の最終的な結果については、市議会の議決がある3月になります。

○中島保育施策調整担当課長      午前中にけやき保育園で説明会を行った際に、同じように状況について知らせて欲しいという話があった際、運協で報告いただきたいというお話もありました。

運協の実施予定で言うと、11月、1月、3月となっていますのでその時々でどのようなご報告ができるかは考えたいと思います。

○参加者      お願いしたかったのは予算的な補填がしてもらえるかということで、今、業者の方に入っていていただいて写真を撮ってもらっていて、年間24回

の写真撮影が続けられるかというのが質問で、それはわからないということですか。

○黒澤保育課長 その形での対応は難しいという回答になります。

ただ、園内の活動の写真がないとアルバム等を作るときに大変だと思えますので、違う形で対応ができないかを考えているということです。

○参加者 業者の方に頼むと、皆がしっかり映るとかの配慮を全部業者の方がやってくれています。先生方の目線で通常の保育の写真を撮ってくれてうれしいということはありますが、通常の保育も大変だと思うので、お願いするのが申し訳ないというか、業者に依頼しているところの予算について対応してもらえないかと思っているのですが。

今までの水準に戻すには、大体 30 万円くらいかかるということなので、保育士さんをお願いするのは違うというのは懇談会の時にもお話したんだと思います。コドモンはそれをシェアするツールとして使うということだと思います。

○黒澤保育課長 父母会で今負担しているお金を肩代わりするというのが、公金を補助するという観点からハードルが高いということです。

先生方が日々の保育の写真を撮るとするのは、業務の範囲とも考えられるので、その方が行政的には考えやすいということでお答えをしておりますが、そういうご意見があったということについてはいったん受け止めさせていただければと思います。

○参加者 クリアをしなくてはいけないハードルが何なのか、みたいなのを具体的に教えていただけるとありがたい。父母会が払っているものを補填するということになるのは何がいけないのか。どういう方法があるのか、議論ができればと思うのですが。

○黒澤保育課長 役所的な話になるので申し訳ないのですが、特定の方に対して補助金を交付するということが、市として補助金や交付金の公平な使い方という観点で認められにくいということになります。

○参加者 できないのであれば、24 回のうち業者にお願いができない 20 回について保育課が園に来て、写真を撮って選別や補正をするという案もあると思うのですが。

○黒澤保育課長　そういうご意見は受け止めたいと思いますが、ただ私は保育課長という立場で、どういうやり方がより効率的なのかという視点で考える必要があります。現場にいない職員が園に出向いてというのが良いのかということ含めて、こちらで検討させていただければと思います。

○白井市長　今日改めてご意見いただいておりますので、どうできるかというのは、改めて調整をさせていただきます。

○参加者　写真の話しは延長で、いったん検討いただくということですが、蓋を開けてみて、やっぱりできませんでしたってことは、ちょっとなしにさせていただきたいと思います。補助が無理なのであれば、また別案を考えていただいて、ご提示していただきたいと思います。

通常であれば、全部クリアになった上で廃園が進んでいくはずが、全部にクリアにならない状態で廃園が進んでいるので、そこはわかっていただければと思います。質問ではなく意見です。

○参加者　今の写真についての話なんですけども、写真が取れなくなったのは段階的縮小が進んだからで、園児がいれば、父母会で写真が撮れたんです。市がそれを進めたのに、写真については市が責任を取らないでどうするんですかという意見です。

今使っている業者さんが結構いいんです。抜けてる子が欠席の子以外本当にいないっていうのが、すごく魅力だなあとと思います。もちろんぶれたりしていないですし、いい表情で写っているのが多いんです。

園の先生たちにも相談したんですが、先生たちが保育の最中に、万遍なく子どもを撮って選別するというのは無理だと思うんですよ。保護者だってそれを課したいと思っていませんし、やっぱり別業者に頼んでいくっていうのが、一番いいんじゃないかなというふうに父母会としては考えてお願いしたいと思っています。

園児が減ったので、回数を12回に落としました。本来24回だったんです、半減しました。来年は、12回から4回になってしまいます。なので、その足りない分の30万円という話なのですが、そのお金が公金として補助するのが、ということをおっしゃっていましたが、そのお金は個人に渡すのではなく、廃園を決めた責任を取るためのお金だと思います。

あとは話が出ていたのは、廃園に伴う資料を残すための写真撮影代みたいな、名前は何でもいいですけど、くりのみ保育園の子どもたちに使うお

金として何とか予算つけられないのかなと、父母会として、親として非常に悩んでるんです。なので、ぜひ対応して欲しいと思っています。

あと先ほど運協で報告という話が出ていましたが、園児数が減ってきたせいで、役員も捻出できないような状態に父母会自体もどんどん縮小しないといけない状況になってはきているので、運協に絶対保護者が出られる状況ではなくなってしまう可能性が出てきているので、園を通してといいますか、保護者がみんな知れるという機会を設けてもらったほうが私は、嬉しいのかなと思っています。

○中島保育施策調整担当課　運協でいうところは、けやき保育園でそういう意見があったということでご紹介しました。先日やりました三者の懇談会ですが、そういった場合は、前回で終わりではなく、今後どういう形で続けていけるかを園の方でも考えてもらっているのです、そういった場も使いながらお伝えできればと思っています。

あと、運協の資料になれば資料自体をホームページで公開をしています、皆さんにお伝えしたほうがいいような資料がある場合にはコドモンでの配信など伝え方は考えていきたいと思っています。

○白井市長　写真の件なんですけど父母会さんの方で依頼されている業者さんにずっと依頼してきた経過があって、子どもたちのことも良く分かっている状況ということですね。

○参加者　最終学年にアルバムを作る係があるのですが、その写真を保護者が持ち寄ってアルバムを作るのですが、それがなくなってしまうと子ども達は悲しい思いをさせられるというか、写真は大事だと思うので。

○白井市長　先ほども申し上げましたが、調整させてください。ただ予算を伴う形にはどうしてもなるとお思いますので、先ほどもお伝えしたとおり議決の前にお伝えするのが難しいのですが、提案の段階でも、予算書に載ればそれは公になるということですので、どういう形でできるかというのは内部で調整させていただき、こういう形でというのは事前に皆さんにも相談はできればおと思います。

○参加者　それが3月ということですか。

○堤子ども家庭部長　議案送付だと2月中旬になります。

皆さんの心配はアルバムとか、また写真を撮ったりという思い出の部分だと思っておりますが、補助金できるのかという点については、役所の规则的に言うと、最終的に個人のものになるものに補助を行うということがしにくいということです。

今、市長からお話があったように、いったん検討をさせていただき、子ども家庭部としての考え方は1月には見えてくる。それを議会に諮っていくのが2月中旬になる。議会の結論が3月になるということです。

段階に合わせて、我々も検討して、それをお伝えできるように考えさせていただきます。

○参加者      そうなると、先ほどの懸念の、結局3月にダメでしたと言うことがあり得る。

○中島保育施策調整担当課長      今、市長と相談しました。その時点での考えということになりますが、最短で言えるのが1月運協になるかと思います。

○黒澤保育課長      結局3月の議会で議決されないと予算は付かないので、あくまで案の段階の話ということをご理解ください。

○中島保育施策調整担当課長      一旦そういう考えで、議会の方にご提案する考え方自体は1月の運協の時点で、市長とも話をしましたが、お伝えをしたいと思います。

○参加者      問題は無理だった場合、どうするかということですよね。わかるのが3月だと。

○堤子ども家庭部長      予算について、最終的なことは申し上げられないと言っていますが、提案したものが否決される確率が非常に高いと言っているわけではありません。

予算が全面的に否決されるということは、可能性としてゼロとは言いませんが、一部組み換えの議案が出ることはあっても全部ダメということはない。つまり、議決がない以上確定的なことが言えないということで、提案したものがまるまる反対されるということについて、そこまでご心配いただくことはないのかなと思います。

ただその上で、市民の代表の方で構成される市議会の議決がない中で、これで決まりましたということは出来ないということです。



○参加者 2年度分在りますので。

○堤子ども家庭部長 わかっています。さらに次年度は大事になりますから。

○参加者 個人的な思いとして、議会にすごい不信感があります。なので、市長を中心に全力で在園児ケアとして検討いただければと思います。  
父母会に写真係がありまして、業者との連携を図ってくれると言っていて、見積書とかもお願いできると言っておりましたので、ぜひ、決まり次第共有してもらえればと思います。

○中島保育施策調整担当課長 そういったお話をちょっと伺えればと思います。それは決まる前の考え段階で、状況をお伺いしたいです。

今まで父母会でやっていただいている部分で、私たちとしてその業者さんと直接やり取りをしておらず、チャンネルを持ってるわけではないので、ご連絡先などを父母会の会長さんの方からいただいて、調整をしていきたいと思います。

○参加者 また写真のことになってしまうのですが、本当にそれぐらいゆゆしき問題なのは、懇談会の時にもお伝えをしたとおりで、廃園を進める以上市の責任としてどうにかしてということはあるのですが、補足をするのと、以前、保育士さんが撮った写真を販売していた時期があったはずなんです。それを無くした理由もそこにあったはずで、保育士さんが撮るっていうことにまた戻すっていうのは、またちょっと、もちろん保育士さんの負担っていうところもそうだし、保育者にとってもらうはやめましようという理由が揺らぐことになるので、その整理をきちんとしていただいたほうがいいと思います。

皆さんと同じように私も保育士さんには保育をしていただいて、写真は写真で誰かに撮っていただくという形か、別で、予算をとというのはどっちかと思うんですけど、それはやっぱり別の方法として考えていただきたいですっていうのはお願いします。

今、父母会で契約していただいている写真屋さんは、くりのみを撮っているということで、5園違うんですよ。くりのみを撮っていただいている方は毎回ではないかもしれないんですけど、違う方が来ていると聞いてはいます。もしかしたら運協で調べてもらった方が5園分の情報が集まると思います。

○中島保育施策調整担当課長 5園のところですが、民間の保育園もそうですが、写真については父母会でやっていただいています。

今回は在園児ケアのところの話なので、公立の中でもくりのみ保育園とさくら保育園に関しての検討になるかと思っています。

○参加者 もちろんです。その上で、費用感だったりとか、考え方みたいなところは、くりのみで使っているところをそのままスライドという考え方もちろんあると思うんですけど、市として依頼する先を検討するにあたって、1つの業者の話ではなく、いろいろな業者の話があったほうがいいのかなと思ったんで、5園の情報を総合した上で、予算化だったりとかを考えてもらおうと良いのではと思ったということです。5園全部で写真をやれということではありません。

○黒澤保育課長 予算を取って契約ということになると、業者を選定して見積もり合わせという話にもなってくるので、少なくともさくら保育園の話は聞いた上で検討をしていきたいと思います。

○参加者 あと、今の話しで出ていましたが、三者の懇談会は定期的にという話があったのですが、前回の話しの内容がいつフィードバックされて、今後はどのようにやって行くのか、時間帯やメンバー含めどうなっていくのかという具体的な内容が知りたいということと、もう一つ、ここの活用方法について、決めましたではなく、どう活用していくべきか、運協なのかわかりませんが、父母を交えて話す場を設けて欲しいです。

○黒澤保育課長 三者懇談会についてご質問いただきましたが、現時点では確定しているものではありません。

ただ、先生方と話をしているのは、説明会みたいな形にすると、対立構造みたいになって、ある程度確定したものじゃないと話せなかったり、なかなか話がしづらいということもあり、前回は懇談会形式にしました。

さくらとくりのみで今回やってみて、今後、園毎に違うやり方になるのか、今後についても皆さんの感想含めて園の先生とも相談して決めていきたいと思っています。

今日の時点では、すみません、こう決まりましたということをお伝えすることができません。

○参加者 前回の内容をまとめたものを、11月ぐらいにお時間を取ってお話いただけるという話があったと思うんですけど、それはどうなりますか。

○園職員 昨日からコドモンで掲示しておりますので、ご確認いただければと思います。

○参加者 あと、跡地活用についてはどうですか。  
市長はなるべく早く決めたいとおっしゃっていましたが、今後どう活用されているのかの検討の経過を含めて把握したいということと、決まったことの報告を受けるということなのか、保護者として意見を言えるのかということはどうですか。

○白井市長 まだそのプロセスまで正直決めきれてないところはあります。ただ、何らかの形でご意見いただくことはあるかと思うのですが、それを最初に聞くのか、こちらの方で案を出しながら市民の皆さんの意見を聞くのか、一旦整理をしたいと思っています。

○堤子ども家庭部長 何らかの中間的な考え方をお知らせするフェーズは必要だと思っていて、それに対してご意見をいただくことになるのではないかと思います。  
現段階のイメージはそういうところで、ただ説明してということではないです。

○参加者 今の質疑のところでわからないことがあってお伺いしたいんですけど、この間の懇談会で気持ちについては受け止めてもらって、こうことはできないんですかという質問もあったかと思っていて、それに対する回答はいただけるんですか。  
保育の話のところが結構多かったのかはちょっと見えないんですが、コドモンを見ていないんですが、それはこうしますという回答というより議事録になっているのかなと思っていて、自分が出した意見に対して答えを求めているという質疑もあったのではないかなと思うんですが、それに対する回答もご用意いただいているということですか。

○黒澤保育課長 保育課にいただいた予算関係の話、写真などについては、わかってきたらお伝えしますということです。  
それ以外の、園の中でこのようなことができますかというようなアイデ

アをいただいて、そこはと先生方の中で、預かっていただいて、検討いただいているところです。

○園職員 来年度以降の保育についてというところで、今職員で考えているところで、予算が絡むところは保育課を通して考えていて、私たちはいただいたアイデアで、子どもにとってどうなのかという観点で、日常とかけ離れた保育にならないようにということと、今ある行事というものの大事にしたいと思っているので、忙しくなりすぎないようにとか、いろいろなことを合わせて考えています。

詳しい行事の日程等については改めて機会を設けて皆さんにご説明します。

○参加者 一問一答のような形で回答をいただくということではないということですか。

○園職員 そういう形での回答ではないです。

○参加者 来年度3歳児がいなくなることについて、4歳児5歳児には何か説明をされるのでしょうか。先ほど保育課長から、園の職員の仕事については課長として考えるというようなお話がありましたが、そうであれば子ども達には上司である課長から説明して欲しいと思うのですが。

4月にすぐに気づく子もいれば、すぐには気づかない子もいるとは思いますが。

○黒澤保育課長 組織的にはそうですが、対子どもに対しては各園の保育士の対応が良いと思っています。

○園職員 今の段階ではそこまで話が来ていないので、持ち帰らせていただいて、そういう話をする機会を設けるなど考えたいと思います。

○参加者 くりのみの卒園児には廃園についてなんと言っているのいいんでしょう。保護者として子どもになんていうべきなのかと思っていて、市としてなんと説明するのがいいと思いますか。

子どもに聞かれるとすごく困るんですけど、なんで廃園になっちゃうのって。

○黒澤保育課長 市の長年の方針でこうなったというのが答えなのですが、子どもを目の前にせずにお答えが難しいのですが。

○参加者 疑問に思っている子たちがいて、私もいまだに納得できないですし。答えが難しいではなく考えて欲しいです。

○中島保育施策調整担当課長 懇談会でもいただいたご意見だと思います。この間の説明会でもいただいています。

市としての考えはありますが、そのお子さんの受け止め方もありますし、一対一でなのか多数に対してなのかもあるので、難しいところがあります。

これまで説明会で老朽化の対応含めお叱りを受けた部分があります。きちんと過去から積み上げて対応できるようにしておくべきだったのではないかということなど、市としてできていなかった部分があるのは事実です。それをそのままお子さんに伝えることが良いのかは悩ましい部分だと思います。

私が言うことではないかもしれませんが、だからこそ、跡地についてくりのみ保育園をこうしていきたいんだということ、なぜなくなるのかということの説明は難しいのですが、小金井市は今後くりのみ保育園をこうしていきたいんだということを伝えるということが大事かと思っています。

この前の懇談会でも、今学童が大変なんだから、学童に使えるんですかという話もいただきました。くりのみ保育園、さくら保育園の跡地をどうしていくかについては、方針では子どものために使ってきたことを考慮してとしています。そこをどうしていくかについて、しっかり考えて伝えていけるようにしなくてはいけないと思っています。

お答えが難しくて、大変申し訳ないんですけど、私たちはその部分をしっかり考えていく責任があると思っていますので、皆さんにもアドバイスをいただきながら考えていきたいと思っています。

○参加者 そうであれば早速アドバイスをするんですが、市の大人たちはいらないと判断したということなんじゃないかなって思うんですよね。お金のこととかいろいろあると思うんですが、いらないっていう判断をしたから無くすんだということが答えだと思います。

その先に、この場所はこういう形で変わっていくというのが決めたものの責任だと思います。いいんじゃないですかね。いらなくなりましたということで、それを言うべきかと思っています。

○堤子ども家庭部長 市は、一言で言えば市全体の保育の向上のために悩ましい判断をせざるを得なかった。そういう意味では、みんなのためというところがあつた一方で、今、担当課長が言ったとおり、子どもたちにとっては、自分が育つ場所がなくなる喪失感と向き合うことになるので、そこに対してということになります。

いらなかったというつもりはないんですが、言い方を変えれば新たな役割を果たしていくために、5つを維持しながらそれをするのができなかったという大人の問題になりますので、それを言いながら、この場所がより一層意味のある場所になっていくということを説明していく必要があると思っています。

ここを保ちながらということができなかったことも含めて、どう伝えるかということかと思いますが、それが皆のためになるということも伝えたいと思いますが、言葉としてどういうものがということがありますが、そういう思いです。

○参加者 大人はそれでいいんだと思いますが、質問は子どもに対してどう説明しますかということなので、子どもにそれをいってもと思うのですが。

○堤子ども家庭部長 言い方としては、悲しさや辛さを感じている子どもに対してどう受け止めて言うかということになってくると思います。  
単にこちらが話をすればよいということではないとは思いますが。

○参加者 当然ですね。私もそう思います。

○黒澤保育課長 いろいろと話が出たのですが、私はここはいらなかったんだという言葉、子どもにはかけて欲しくないと、個人的には思います。すみません。

子どもは、大事なものが大切じゃなかったと言われたら、自己肯定感が下がるので、無くなって残念だねということや、寂しいという気持ちに寄り添って、そこはもうそのまま受けとめていただけたらと思います。

いらなかったと言ってしまうのは、これは私の勝手な思いかもしれませんが、そういう言葉かけはしていただきたくないなと思います。

○参加者 それは私に言うことではないですよ。決めた大人たちに言うべきことなんじゃないかと思います。結果は事実じゃないですか。その人達に聞いたらなんていうんですかね。それはここでいうべき話じゃないし、

私に言うべき話じゃないし筋が違うんですよ。子どもに説明できないことをしなさんなということなんじゃないですか。

○参加者      今の話の続きで私も引かなかったのも、私の想いとしては、いらないから廃園にしたんだと思っています。新たな役割とかきれいなことを言いますが、結局は予算が取れないから、保育士が集まらないから廃園になった、要約するとそういうことだと思っています。子どもにどう説明するかは置いておいて、決めた皆さんには、くりのみの保護者としては、くりのみに割く予算がないから廃園にしたんだと私は思ってますし、そういう思いを持っている人がいるということを認識した上で発言して欲しいです。

新たな役割というようなきれいごとと協力するために廃園を受け入れるわけではなくて、結局切り捨てられたという思いを持っているということは認識しておいてほしいです。説明としてそういう言葉になるのはわかるんですが、それを私たちに対して、新たな役割を果たすためにこうしたんです、それが廃園なんですといわれても絶対違うと思うし、予算が無限にあれば違いますよね。

子ども達に言わないで欲しいとそっち側が言うのは違うんじゃないかなと思います。廃園でゴリゴリ進めてきたのにきれいごとを言うのはおかしいんじゃないかなと思います。子ども達への説明は市がちゃんとするべきなんじゃないかなと思っています。

○中島保育施策調整担当課長      子どもに対する説明については、現場の保育士とも相談をさせていただきたい部分があります。大人として考えた内容を伝えることは出来ますが、それを子どもに伝えることの影響ということは、日々子どもたちと接している保育士の考え方もあるので、いただいたご意見は受け止めたうえで、今日保育士も同席をさせていただいておりますが、園とも相談して対応を考えたいと思います。

何かしらのアクションを行う考えはさくら保育園も同じになりますので、対応を考えたいと思います。

○黒澤保育課長      他にご質問ございますでしょうか。今日、指数のご説明もいたしました。ご家庭の状況によって変わってくるところがありますので、直接保育課にお電話等いただければと思います。

○参加者      廃園を決めた責任を取ってくださいという話だと思います。きれいご

とでオブラートに包まずに、自分たちで決めたことをストレートに受け止めて欲しいということだと思います。

それはそれとして、日々の保育やきょうだい児の入園や写真のことについて、今までの市政の型にはめて考えないで欲しくて、イレギュラーのことを進めるのであれば、細かく落とし込んでケアをしたり、イレギュラーを作って対応したりということをリアルに行動して行って欲しいです。

今日話を聞いてそこが足りていない感じがするので、そこをしっかりと考えて血の通った政策をして行って欲しいと思います。

○白井市長 大変申し訳ございません。

写真の件含めて、廃園をするということは皆さんが納得をしてそうになっているわけではないということはおわかっているつもりではあります。

イレギュラーという言葉もありましたが、対応を考えてということについてはしっかりと受け止めたいと思います。

写真の件については、何とかしないとと思いましたので、改めて調整をさせていただきます。

子どもへの伝え方については、私もお答えができませんでしたので、保育士含めてどう説明をすべきかについてしっかり考えたいと思います。

○黒澤保育課長 お休みの日にまとまった時間をいただきありがとうございました。

またご質問等ございましたら保育課にお問い合わせいただければと思います。本日はありがとうございました。